



災害が起きたら



東日本大震災の 応急給水の様子

市内の約半数が断水となり、給水所では水を求めるためにたくさんの方が並びました。



村上 昭浩様撮影

もしも大地震が起ったら、水道はどうなるんだろう？

水道局では、地震でも壊れない浄水場や水道管づくりを進めているよ。でも、大きな災害が起きた時には、断水になることも考えられるんだ。その時のために、災害時給水栓や給水車などを用意しているんだよ。

わたしたちにも何かできることはないかな？



災害時給水栓

防災備蓄倉庫にあるホースと蛇口をつなげば、地域の方々だけで簡単に給水所を開設することができます。東日本大震災の教訓から市内市立小学校、市立中学校、市立高等学校に整備をすすめています。

自分たちで給水できるね！

学校

お風呂に水をためておけばよかったな…



住宅地

料理もできない！



トイレの水が流せない！



公園

非常用飲料水貯水槽

学校や公園などの地下に約10,000人分の水を貯めることができるタンク(水槽)を設置しています。災害がおきたときには、ポンプで水を吸い上げてみなさんに飲み水を配ります。

人の命にかかわるところに急ごう！

病院

水がないと治療ができない！

給水車

病院や避難所となる学校などに給水車で水を届けます。給水車は、ほかの都市から応援に来てもらうこともあります。

重いものが持てないんだけど、水をどうやって運ぼうか…

お水運びましょうか？

地域の助け合い

仮設水槽

組み立て式で、断水によって給水が必要になるところに運んで使う水槽です。給水車から水を入れてみなさんに配ります。

大きな災害に備えて、「水の備蓄」をしよう！

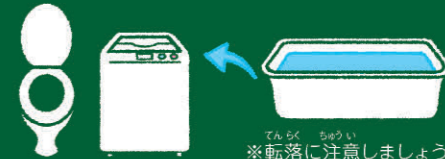
1日に必要な水は1人3リットル！

人が1日に必要とする水分は、およそ3リットルといわれています。地震などの災害に備えて、1週間分を備蓄しましょう！

3リットル × 人数 × 1週間分

生活用水(トイレなど)も必要です

飲み水だけでなく、トイレや洗たくのための水も必要です。お風呂の水はすぐに流さず、くみ置きしておきましょう。



ふたが閉まる容器を用意しましょう

給水を受ける時、鍋やバケツに運ぼうとすると水がこぼれてしまいます。ペットボトルやポリタンクなど、ふたつきの容器を用意しましょう。リュックサックやキャスター付きのバッグに入れば楽に持ち帰ることができます。

